



一般財団法人KODAMA国際教育財団

「第8回（2025年）未来のいしずえ賞」授賞式

2025年2月28日（金） 14:00～16:00

帝国ホテル東京 4階「桜の間」

実施報告書

2025年3月

一般財団法人KODAMA国際教育財団

1. 実施概要

KODAMA国際教育財団 「第8回（2025年）未来のいしずえ賞」について

■一般財団法人 KODAMA国際教育財団について

<活動理念>

私たちは教育を必要としている青少年に「学び」の機会を提供し、社会の発展に寄与する人材育成の支援をしてまいります。

また、「学び」の可能性を未来へと広げ、社会で実践している人を支援してまいります。

これらの活動を通して健康で豊かな国際社会の実現に貢献いたします。

<ステートメント>

夢と目標を分かち合う。夢を共有することが喜びとなる。目標に向かって共に取り組むことが希望となる。

誰もが「夢と目標」をもてる社会をつくる。それが私たちの願いです。

理事長 児玉 圭司
理事 コシノジュンコ、鳥飼 重和、岡山 慶子
評議員 児玉 義則、塩島 一郎、関根 宏一、中田 恭子、中村 国善、ディルク・ファウベル
監事 高橋 浩、出口 勝
事務局長 上阪 俊司

〒104-0061

東京都中央区銀座5-14-5 光澤堂GINZAビル7階（株）朝日エル内

（第8回未来のいしずえ賞事務局）

TEL:03-5565-1447

FAX:03-5565-4914

E-mail:mirai@kodama-mirai.org



1. 実施概要

KODAMA国際教育財団 「第8回（2025年）未来のいしずえ賞」について

- タイトル 一般財団法人KODAMA国際教育財団
「第8回（2025年）未来のいしずえ賞」授賞式
- 日時 2025年2月28日（金） 14:00 ～ 16:00（招待者受付13:30～）
- 会場 帝国ホテル東京 本館4階 桜の間
（東京都千代田区内幸町1-1-1）電話：03-3504-1111
- 主催 一般財団法人KODAMA国際教育財団、「未来のいしずえ賞」実行委員会
- 招待者 主催者含め来場者 78名
- 目的及び開催趣旨
 - 「第8回（2025年）未来のいしずえ賞」の受賞者公式発表、受賞者及び活動を顕彰。
一般財団法人KODAMA国際教育財団の周知と活動紹介
 - 「未来のいしずえ賞」は、未来に向かって豊かな社会の礎を築くために、人知れず努力を重ね、貢献した方々の功績を讃える国際賞です。
より良い社会へと導いていくために強い意志をもって活動している人に授与されます。
本財団は目的に向かって懸命に努力をしてきた方々を顕彰することで、未来への夢と目標を育み、持続可能な社会に貢献してまいります。



2025年未来のいしずえ賞 実行委員会

- 実行委員長
コシノジュンコ（KODAMA国際教育財団理事、デザイナー、JUNKO KOSHINO株式会社）
- 実行委員
児玉 圭司（KODAMA国際教育財団理事長、株式会社スヴェンソンホールディングス代表取締役会長）
鳥飼 重和（KODAMA国際教育財団理事、鳥飼総合法律事務所代表弁護士）
岡山 慶子（KODAMA国際教育財団理事、株式会社朝日エル会長）



リーフレット

表彰部門	推薦人	受賞者	受賞者プロフィール
① スポーツ部門	●推薦人 児玉 圭司 株式会社スヴェンソンホールディングス 代表取締役会長 登坂 絵莉 元女子レスリング48キログラム級日本代表 リオデジャネイロオリンピック 女子レスリング金メダリスト	藤波 俊一 日本体育協会公認レスリング 指導員 藤波 朱理選手の父	レスリングの藤波朱理選手を公私ともにサポート、二人三脚でパリオリンピック女子53Kg級 ゴールドメダルを獲得。
② 医療部門	高折 晃史 京都大学医学部附属病院 病院長	大谷 貴子 日本骨髄バンク 評議員 全国骨髄バンク推進連絡協議会 副会長	骨髄移植による慢性骨髄性白血病からの奇跡的な生還を経て、骨髄バンクの普及といのちの重みを伝える活動に奔走。
③ 保健福祉部門	福井 トシ子 国際医療福祉大学大学院 副大学院長・教授 中田 恭子 英国王立美術家協会 (RBA) 名誉会員	一般社団法人 日本で・あて、TE・ARTE, 推進協会	看護の本質である〈手を用いたケア〉の有用性を伝え、質の高いケアを提供する人材の育成を推進。
④ 文化奨励部門	岡山 慶子 株式会社朝日エル 会長	新井 鷗子 横浜みなとみらいホール館長	体に障がいがあっても“プロ並みに演奏しているような体験”を楽しめる「だれでもピアノ®」を開発
⑤ 社会活性化部門	コシノジュンコ デザイナー JUNKO KOSHINO株式会社	板原 愛 弁護士	重度の弱視という障がいを乗り越え、司法試験に合格。 弁護士として、誰もが等しく尊重され、夢を実現できる社会に貢献。

1. 実施概要

プログラム

13:15	15	ご登壇者ご説明(橘の間)
13:30	30	受付開始 受付後順次 桜の間へご案内
「第8(2025年)未来のいしずえ賞」授賞式(桜の間)		
14:00	02	開会 司会進行 岡崎 弥生
13:57	06	主催者挨拶 一般財団法人KODAMA国際教育財団 理事長 児玉 圭司
14:03	03	主催者挨拶 「未来のいしずえ賞」実行委員会 実行委員長 コシノジュンコ 未来のいしずえ賞、記念品に込めた思い
14:06	03	第7回 2024年 未来のいしずえ賞の審査選考について 実行委員 岡山 慶子
14:09	61	受賞者発表と表彰式 <受賞者> 【スポーツ部門】藤波 俊一 【医療部門】 大谷 貴子 【保健福祉部門】一般社団法人 日本で・あーて, TE・ARTE, 推進協会 【文化奨励部門】新井 鷗子 【社会活性化部門】板原 愛 <授賞式> ①受賞者発表 ②受賞者紹介VTR放映 ③賞状授与(児玉理事長) ④賞金目録授与(児玉理事長) ⑤記念トロフィー授与(コシノ実行委員長) ⑥推薦人による推薦理由 ⑦受賞者ご挨拶
		 岡崎 弥生
15:20	03	ご来賓ご挨拶 河村 建夫様 (元内閣官房長官・文部科学大臣)
15:23	01	ご来賓ご挨拶 山中 伸弥様 (京都大学iPS細胞研究所 名誉所長・教授)
15:22	25	フォトセッション (進行:伊藤由貴) 1. 受賞者(受賞者、理事長、実行委員長) 2. 集合(実行委員、受賞者、推薦人、財団役員) 3. 部門別(実行委員、受賞者、推薦人、ご家族、ご招待者) ①藤波 俊一 ②大谷 貴子 ③一般社団法人 日本で・あーて, TE・ARTE, 推進協会 ④新井 鷗子 ⑤板原 愛
15:47	10	ご歓談タイム
15:57	04	閉会ご挨拶 鳥飼 重和実行委員
16:01	01	閉会 岡崎 弥生
16:04		ご退室

1. 実施概要





※賞のリーフレットより

「未来のいしずえ賞」は、誰も目を向けてこなかった時から、誰も目を向けてこなかった領域で、強い意志をもって活動を続け、社会の礎を築いている方の功績を讃える賞です。見えない努力を讃えるという、まさに日本的な精神性にあふれた賞といえます。その象徴として、漆が美しい輝きを放つ記念品を考案しました。日本の伝統工芸である漆は、英語ではジャパン (japan) と表記されます。世界はそこに日本の心を感じていたにちがひありません。記念品の四角柱のフォルムはまさに人間の合理、築く力です。それを礎として芽生える緑の若葉。それは言わば、世界を豊かにするために努力を重ねてきた人たちのオリジナルのグリーンです。今回の受賞を讃えて、受賞者に捧げます。この賞が、世界に誇れる賞となり、より良い未来へと導いていくための一助となることを願っています。

「未来のいしずえ賞」実行委員会 実行委員長
コシノジュンコ



1. 実施概要

控室・会場



KODAMA国際教育財団 理事長 児玉 圭司

KODAMA国際教育財団について簡単にご説明させていただきます。

私は会社経営の傍ら、卓球の道を人生の軸として歩んでまいりました。そして2015年に社長を退任し、第三の人生は世のため人のために何か恩返しをしたいと思い、コシノジュンコさんをはじめ各界で活躍されている評議員の皆さんのご賛同を得て、一般財団法人KODAMA国際教育財団を設立いたしました。

この財団では、ラオスの教育支援として、将来ラオスを背負って立つ子どもたちを育成するモデル校としてラオ・ジャパン・スクールを2020年に開校し運営しております。

そして、KODAMA国際教育財団の活動のもうひとつの大きな柱である、「未来のいしずえ賞」は、未来に向かって豊かな社会の礎を築くために、人知れず地道な努力を重ねている方々、まだ誰もが目を向けていなかった領域に挑戦している方々の活動はもっと脚光を浴びるべきであり、称賛すべきであると考え、この顕彰制度を立ち上げました。より良い社会へと導くために、強い意志をもって活動されている方々の功績を称える国際賞です。今回で8回目となりました。毎回素晴らしい方々をお迎えすることができ、心からお礼申し上げます。

今回の受賞者は、

スポーツ部門は、日本体育大学女子レスリングコーチの藤波 俊一さん、
医療部門は、骨髄バンクを日本で初めて設立された大谷 貴子さん、
保健福祉部門は、一般社団法人 日本で・あーて (TE・ARTE) 推進協会の皆さん、
文化奨励部門は、横浜みなとみらいホール館長の新井 鷗子さん、
社会活性化部門は、弁護士の板原 愛さんです。

皆さまの授賞理由につきましては、後ほど推薦人から詳しく説明がございます。

このように各分野で世のため人のために貢献され、懸命に活動されている皆さまを顕彰させていただくことを誇りに思います。皆さま方のますますのご活躍を心から祈念申し上げまして開会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



未来のいしずえ賞 記念品に込めた思い
コシノジュンコ実行委員長



今年は8回目の授賞式となります。ここまで続けてきたことは本当に嬉しいことです。それぞれの分野で、それも表ではなく裏側の見えないところで活躍されている方々を顕彰するために、この賞が贈られます。

このたび受賞された皆さま、本当におめでとうございます。

3. 授賞式

未来のいしずえ賞の審査選考について
岡山 慶子 実行委員

選考の経過について説明させていただきます。

まず受賞者の資格ですが、国籍、人種、性別、年齢、信条を問わず、広いところから、未来のいしずえにふさわしい方を選ぼうというのが基本的な考え方です。

対象部門については、コロナ禍において多少変更しましたが、今回は思いを新たに5部門から選考させていただきました。

7月に対象部門の検討を開始し、9月に選考委員会を開き5部門を決定。11月に候補者のご推薦をいただき、検討を重ねた結果、12月、受賞者と併せて推薦人を決定させていただきました。

以上、簡単ではありますが、選考の経過をご説明させていただきました。



藤波 俊一
日本体育協会公認レスリング指導員 藤波朱理選手の父

本日はこのような賞をいただきまして、誠にありがとうございます。
オリンピックでの金メダルをめざして、娘と16年間歩んだ成果をこのような形で評価していただき、本当にうれしく
思います。
目標を達するまでには、大きなケガ、あるいは喧嘩などもありましたけれども、終わってみればいい思い出になります。
今後、この賞を励みに、次なる目標であるロスオリンピックでの2連覇、そしてレスリング界にとっては初の2階級制
覇をめざして、今後も精進していきたいと思っておりますので、またよろしく願いいたします。
本日はありがとうございました。



推薦人

児玉 圭司 (株式会社スヴェンソンホールディングス代表取締役会長)

パリオリンピック金メダリスト藤波朱理さんを指導された父・藤波俊一さんは、「指導者として大事なことは、強制しない、でもほったらかしもしない。本人にまかせ、自分でやる気を出させる」と言っています。私もまったくそのとおりだと思います。

そして、「尊敬されなくなったら終わりだから」と、家にいても気を抜かず、朱理さんの前ではお酒を一切断ってきたそうです。

朱理さんはレスリングを始めた頃は弱かったそうですが、父の期待に応え、小学校高学年の頃からめきめきと強くなって、パリオリンピックで念願の優勝を果たし、その後も連勝を続け、現在139勝と連勝記録を伸ばし続けております。本当に素晴らしいですね。これからロサンゼルスオリンピックを含めて何連勝するのか楽しみです。
本日は誠におめでとうございます。

推薦人

登坂 絵莉 (元女子レスリング48キロ級日本代表 リオデジャネイロオリンピック女子レスリング金メダリスト)

本日は、私自身も競技の世界で鍛錬を重ねてきたひとりとして、藤波俊一さんを推薦させていただく機会をいただき、光栄に思います。

レスリングをはじめとする個人競技は身体的にも精神的にも厳しいトレーニングが必要です。また、個人競技で戦うという特性上、どうしても孤独を感じやすい部分もあるかもしれません。

そのなかで選手にとって何よりも大きな支えとなるのが指導者との信頼関係だと思っています。

藤波さんが娘さんである朱理選手と共に培ってこられた信頼、情熱、あきらめない心は、私自身も競技者として深く共感するところです。

さらに、長く教壇に立ちながらも環境を変えて朱理選手を支え続け、パリオリンピックでは金メダルという大きな夢をかなえられた行動力と献身には、同じ競技者として強く胸を打たれました。

朱理選手が金メダルを獲得した背景には、藤波さんの惜しみない努力と娘さんへの愛情、そして強い信念があったのだと、私は強く感じています。

このたびの未来のいしずえ賞の受賞は、まさにその功績と人柄を称えるにふさわしいものです。

心よりお祝いを申し上げますと共に、微力ながら推薦人としてお力添えができたことを大変光栄に思います。

本日は誠におめでとうございます。



大谷 貴子
日本骨髄バンク 評議員
全国骨髄バンク推進連絡協議会 副会長

このような栄えある賞をいただきまして、心から感謝申し上げます。
39年前に白血病になりましたとき、骨髄バンクはもちろんありませんでした。アメリカでは始まっていたのですが、日本にはなく、私の命は助からないということを知ったわけです。
けれども、幸いにも母と骨髄の型が合い、元気になったときに、なぜこんなに平等じゃないのだろうと思いました。たまたま家族の中にドナーがいれば助かるけれど、家族の中にいなければ亡くなっていく。それがすごく悔しく、骨髄バンクがないと多くの患者さんが助からないと思ったのです。
もちろんひとりで活動したわけではありません、たくさんの患者さん、たくさんのボランティアの仲間と一緒に骨髄バンクをつくってまいりました。
将来の患者さんが助けられたいと考えたのではなく、ただただ自分に骨髄バンクがないと助からないという想いで動いておりました。ですから、この賞のお話を伺ったときに、そうか、30年経って多くの人が助かる時代になったということは、“未来のいしずえ”になったのだなと思わせていただきました。

骨髄バンクの活動は今ももちろん続けておりますが、医療の中で「おかしいな」「へんだな」と思うことにはどうしても口を挟みたくするのが私の性分です。
たとえば、私は白血病が治って元気になりましたが、残念なことがひとつありました。抗がん剤で不妊になってしまったことです。すごく悔しく、悲しくて、「なんで！」と思いました。きっと他の患者さんも「なんで！」と想っていると考え、お医者さんたちにその想いを訴え続けたのです。今では当たり前のようにがんになっても子どもができるようなシステムができました。それが白血病だけではなく、子宮がん、精巣がんなど若い人たちがかかるがんの治療においても、その後に子どもが授かるシステムができたこともうれしいことでした。
また、最近、とても可愛がっている姪が緊急入院をして、非常に厳しい治療を受けなくてはならない病気だったのですが、「病室にWi-Fiがないので、子どもたちとつながれない」と言うのです。びっくりしました。それで多くの人とオンラインでつながって、今ではすべてとまではいきませんが、約8割の病院で、病室にWi-Fiがあるのが当たり前となりました。京大病院の高折先生も「ぼくとこ、Wi-Fiついてるで」とおっしゃっています。
それから、私は63歳ですが、この歳になりますと、前立腺がんになる友だちも増えてきました。最近、そのひとりが「男子トイレには尿漏れパッドを捨てるところがない」と面白おかしく話をしてくれたのですが、私は笑えなかったのです。「なんでゴミ箱に捨てへんの」と思ったのですが、男子トイレにはゴミ箱がないと知ってびっくりしました。それで、多くの人たちに話をしてみましたら、泌尿器学会のお医者さんからもお話の依頼をいただいたりして、おかげさまで今では官公庁の男子トイレにはゴミ箱がついていると伺いました。どうか皆さん確認していただければと思います。
これからも、医療に限らず、社会の中で「はて？」と思う困りごとがあれば、黙ってはられない性格なので、ささやかながら未来のいしずえとして何かしら積み上げていくことができそうなら、臆せず活動していきたいと思っております。この賞をきっかけにますますパワーアップしてまいりたいと思っておりますので、心から感謝を申し上げ、これからも頑張っていくことを誓わせていただきます。

本当にありがとうございました。



3. 授賞式

●推薦人代理 山中伸弥（京都大学iPS細胞研究所名誉所長・教授）

*推薦人 高折 晃史（京都大学医学部附属病院 病院長）

今日は高折院長が公務のため参加できませんので、代理で大谷さんの紹介をさせていただきます。
私はたまたまプロジェクトXの旧作アンコールで大谷さんのことを知りまして、こうやって日本の臓器移植が始まったのだと初めて知りました。その後、高折先生に今回の未来のいしずえ賞の推薦を依頼しましたところ、なんと大谷貴子さんを推薦されるということで、運命のようなものを感じました。

大谷さんは20代のときに白血病で京大病院に入院され、研修1年目だった高折先生が主治医を務めたというご縁を伺っております。当時、白血病は死の病とも言われていましたが、骨髄移植という新たな治療が登場して、大谷さんはお母様の骨髄と型が一致して移植を受けられ、このように元気になられたわけです。ところが、同じ時期に入院された中学生の方は亡くなってしまった。

骨髄移植後の大谷さんの体調は万全ではなかったと思います。心身ともに大変な中で患者さん自らが日本における骨髄バンクというシステムを作り上げられたことは、本当に凄いことです。

まさに今の社会のいしずえを築かれた。今、白血病が治る病気になったわけですが、そのいしずえを築かれたのが、大谷さんをはじめ日本骨髄バンクの皆さんです。この場をお借りして敬意を表したいと思います。
本日は本当におめでとうございます。



一般社団法人 日本で・あて、TE・ARTE, 推進協会
代表 川嶋みどり

ただいまは身に余るご推薦のことばをいただきありがとうございました。
手の効用については福井先生がご説明くださいましたので、私は、なぜ「て・あて」という名前にしたのかについてお話しします。

古くから「手当て」という言葉がございます。私は大学在任中に「看護師の手の有用性」の研究をしておりました。手は、なでたり、さすったり、軽くたたいたり、いろんなことができます。疲を出すこともできますし、おしっこの出ない方のおしっこを出すことも、便秘の方の便を出すこともできます。看護師の手は万能なのです。その手を、看護師たちが用いなくなった。なぜかという、IT化の進行で医師は患者さんの体を触らなくなり、コンピュータの画像を通して診断するだけになりました。診断は精密化したかもしれませんが、患者さんにとっては物足りないと思うのです。看護師もまた手を用いなくなりました。私はそれがとっても残念で、昔から手当てという言葉があるのだから、もう1回それを取り戻そうではないかと、科研費をいただいて「看護師の手の有用性」の研究をしたのです。そのとき、副題として「手当て学の構築をめざして」と書いたところ、助手に「手当て学の手当ては子ども手当の手当てと同じ意味ですか」と言われました。最初はからかわれているのかと思いましたが、「年末手当、期末手当、残業手当というもありますね」と言うので、字引きを引いてみたら、1番目に「決まった俸給以外に支払われる金銭」とあり、2番目に「手当てする」と助動詞がついたら病気や怪我の処置となるらしい。とはいえ、「手当てする学」ではおかしいので、「手のアート」にすればいいとも思ったのですが、日本語ではないかと悩んでいたのです。そんなところにJICA（国際協力機構）のプロジェクトで見学に来られたアフリカの看護師15~16人に授業をしたときに、私が「アフリカには機材がなくても手があるでしょう、日本には古くから手当てという言葉があるのよ」という話をしたら、彼女たちは「テ・アーテ」「テ・アーテ」と歌ってくれたのです。その語感が非常に柔らかく、やさしくて、これはいい言葉だと。それで、ひらがなの「て・あて」と、手のアート（ART）にEをつけたTE・ARTEで、「日本で・あて、TE・ARTE, 推進協会」という名前に決めました。

ですから、「て・あて」ではなく、やさしく「て・あて」と言っていたきたいのです。もうひとつ、「モットイナイ」が世界に広まったように、「て・あて」も世界中の言葉になるようにと願って、この名前になりました。

今日は本当にありがとうございました。



推薦人●福井トシ子（国際医療福祉大学大学院 副大学院長・教授）

一般社団法人 日本で・あーて、TE・ARTE、推進協会さんは退職後の看護師「プラチナナース」を中心に、〈手を用いたケア〉の有用性の啓発と、質の高いケアを提供する人材育成をめざして活動を続けてこられています。その前身である「東日本これからのケアプロジェクト」では、首都圏と宮城県下のプラチナナースが参加して被災地のコミュニティの交流や健康管理を支援してきました。被災地支援においては、復興のみならず、健康をどのように維持・回復していただくのが大きな課題でした。入院の必要はなくても暮らしの場をどう維持していくかという面で、このプラチナナースの力が大変大きかったと思います。

2014年に日本で・あーて、TE・ARTE、推進協会となつてからは、「て・あーて東松島の家」を開設し、独自の健康長寿プログラムを実施しました。代表の川嶋みどりさんは93歳ですから、まさに健康長寿を実践されてきた姿でもあります。川嶋先生をはじめプラチナナースの皆さんは、仮設住宅での“お茶っこ”を通じた交流の場づくりにも貢献してくださっています。

そして、「て・あーて塾」を通じて、被災地でケアを必要とする人々のQOLを高めるケア技術の研究と教育を実践してきました。この成果につきましては、川嶋先生はことあるごとに私たちに啓発してくださり、今なお広く私たちを教育してくださっています。

この被災地の支援活動は終了されていますが、人と人のふれあいにより免疫力や自然治癒力を高め、信頼関係を構築する〈手を用いたケア〉の価値の普及と、質の高いケア人材の教育を続けておられます。孤独がいかに健康を害するかということだと思えます。

プラチナナースの方たちがいつまでも看護師としての使命を忘れず、自分の手で寄り添い、看護の力を世の中に広めていらっしゃることに、深い敬意を表し、この賞に推薦させていただきました。また、この推薦のこぼれを述べさせていただきます。

本日はおめでとうございます。



推薦人●中田恭子（画家・英国王立美術家協会〈RBA〉名誉会員）

「日本のナイチンゲール」と呼ばれる川嶋みどりさんのチームのお働きや詳細については福井トシ子様よりお話がありましたので、私は一つのエピソードを話させていただきます。

2011年3月、東北で日本の地形を変えるほど大きな災害があり、たくさんの方の命が失われました。日本赤十字の医者たちも当然派遣されました。当時日赤の内科部長をしていた私の主人は原爆が落ちた長崎の出身でもあり、放射能が後々に与える影響も知っていましたので、未来ある若い先生を行かせてはいけないと、年寄りの自分が飛び出していました。病院もなく、テントを張っての診察だったと聞きます。日赤をすでに退職なさっていた元看護師長の山本さんも飛んで行かれました。今日ここにいらっしゃる山本富美子さんです。献身的で、患者さんに寄り添う、本当に看護師の鑑のような方です。

人として一番大事なことは、誰かのために自分が何をできるかということだと思います。定年間近の主人が放射能の影響を受けることを知りながら飛んで行ったのは、「とにかく一人でも多くの人を救いたい」という医者としての想いからでした。山本さんも退職していたにもかかわらず、被災地に飛んで行かれました。私はこれこそ本当の医療行為だと思いました。名誉もお金もまったく無縁のところへ飛び出していくのは、人としての心、使命をしっかり持っているからだと思います。それから14年も経た今日まで、山本さんは毎年毎年、何回も何回も、現地にお出かけになって被災地の方々のお世話をしておられます。

絵描きの私は絵を描くことしかできず、祈りのカレンダーを描いて現地に送ったことがあります。初年度には「絵より洋服やお金がいい」と言われ、市役所に山積みになって残っていたそうですが、山本さんは私の想いに気がつき、皆さんに配って下さいました。すると、「このカレンダーの下だけモノが壊れなかった」とか「カレンダーに話しかけて元気をもらう」といったお便りをいただくようになりました。数年前からは100枚送っているカレンダーがすぐになくなってしまいます。これは私の祈りを山本さんがつないでくださり、被災地の皆さんが山本さんに「手当て」を受けていた証です。いいことを思いついても、やり続けるのは簡単なことではありません。長年それを心に留め、活動し続けていくことはどんなに大変なことかと、山本さんを見ていて感じます。

児玉会長、コシノジュンコさんもまた、同じことをなさっています。山本さんたちの想いを少しでも支援したいと思って、推薦させていただきました。推薦したあとでさらに調べてみると、退職した看護師さんたちがいつまでも看護師としての務めを忘れず、日本のナイチンゲールと言われている川嶋みどりさんのもとに集まり、自分の手で被災者の心と体に手当てをする「て・あて」という集まりをつくって寄り添い、本当の看護の力で世の中に尽くしていらっしゃることを改めて知りました。この方たちを推薦して本当によかったと思っております。以上、簡単ですが、近頃台頭しているAIには真似のできない、人の心と手で人々を救う素晴らしい方たちを推薦する挨拶をさせていただきます。



新井 鷗子（おーこ）
横浜みなとみらいホール館長

このたびは栄えある賞をいただきまして誠にありがとうございます。

この「だれでもピアノ®」というのは、片手の指1本でメロディを弾くと、自動で伴奏とペダルがついてきて、誰もがプロのピアニストになったような気分を味わえるピアノです。その自動伴奏の部分を私どもが開発したのですが、人間が練習しないと上手くならないというところがミソで、全部を機械がやるのではなく、人間が目標に向かって進んでいくプロセスを機械が少し手助けするという仕組みになっています。

私はこのピアノを通じて「インクルーシブアーツ」の研究に携わっているのですが、その中で大切にしていることは、誰もが楽しめる芸術をつくるということではなく、芸術を通して誰もが社会に参加できる仕組みをつくるということで、そのために芸術がどうあるべきかを常に考えております。

そのためには、まずいちばん身近にいる1人の人を感動させること。1人の人を救うことから始めて、そこからみんなに広がっていく。「1人を救えない者は誰も救えない」をモットーに、インクルーシブアーツの研究に勤しんでおります。

この「だれでもピアノ®」を皆さまにお披露目をしたのが2015年、今年はちょうど10年目にあたります。来月には「だれでもピアノ®」アプリがリリースされ、このアプリをインストールすると、世の中にあるすべての電子ピアノが「だれでもピアノ®」として活用できるようになります。このピアノによって、教育、医療、福祉など様々な社会資源がつながる未来が描けたらいいなと思っております。

すばらしい賞を受賞させていただき、誠にありがとうございました。



推薦人●岡山 慶子（株式会社朝日エル会長）

新井鷗子さんは東京藝術大学の客員教授をされ、横浜みなとみらいホール館長をされています。そして、たくさんの音楽番組の構成をされ、音楽関係者やクラシックファンにはおなじみの方です。

新井さんはたった一人の少女の夢、1本指でショパンのノクターンを弾きたいという夢を叶えるために、「だれでもピアノ®」を開発されました。

東京藝術大学では、共生社会のためにアートが何をできるかという課題に真剣に取り組み、美術部門ではかなり研究が進んでいたのですが、新井鷗子さんは音楽でそれができないだろうかかと模索をされていた中でこの少女と出会い、誰もが音楽と一緒に楽しくなるようなことを実現したいと大変な努力をされて今日に至りました。

私は、たくさんの方が「ピアノを弾きたかった」「体の自由が利かず弾けなくなったと思っていた」とおっしゃるのを聞きました。また、障害があって、おそらく自分がピアノを弾くなんて夢のようなことだと考えていた男の子が「だれでもピアノ®」を弾いて本当にうれしそうな顔をしたのが非常に印象に残りました。

最近では、高齢の認知症の方にこのピアノを弾いてもらうとどんな効果が見られるか、また、病院に「だれでもピアノ®」が設置されると医療従事者や患者さんがどう変わっていくのか、そして近隣の社会との関係はどう変わっていくのかを実験され、その結果を学会などで発表されています。

こうして「だれでもピアノ®」は弾く人の喜びとなり、1人の人から社会全体が変わっていくということに多大な貢献をしています。このピアノが広がることによって、新井さんはまさにインクルーシブな社会、共生社会を築かれています。本当におめでとうございます。

板原 愛
弁護士

このたびは非常にすばらしい賞をいただきまして、本当に光栄に思っております。
私は重度の弱視という視覚障害がございまして、子どもの頃から普通の文字で勉強をすることや日常活動することが難しかったので、点字を使っているいろいろなことをしてまいりました。司法試験についても、点字とパソコンの文字を読み上げてくれる音声ソフトを使って受験し、弁護士になりました。

このような賞をいただくにはまだ全然功績が足りていない若輩者ですが、未来のことについてお話しさせていただきたいと思っております。

そもそも私は今、優生保護法東京弁護士団に所属しております。この優生保護法というのは、1948年から1996年まで障害のある人などに対して不妊手術や強制的な中絶手術などを行うことを認めた法律でした。その理由としては、障害のある人は不要な存在であり、不要な遺伝子を遺す必要性はない、不要な子孫を遺すことを防止する必要があるということと法律が定められたという経緯があります。このような優生思想～障害がある人は要らないという思想のもとで、多くの人が不妊手術を受けるだけではなく、修学や就労など様々な場面で差別に遭ってきました。

しかしながら、私に関しては、優生保護が存在した1990年に生まれたにも関わらず、様々な勉強の機会を与えてもらい、弁護士になりたいという夢を持った時に両親や周りの人々に全面的に応援してもらい、様々な環境を整えてもらって弁護士になることができました。

これはもちろん、社会全体が優生思想や障害者に対する差別から卒業したということではなく、私の環境が著しく良かったのだと思っています。一方で、私の周りには、まだまだ障害ゆえに教育を受ける機会が大幅に制限されていたりする人がいます。何よりも、障害を持って生まれてきたこと、途中から障害を持ったことによって、周囲から期待をもたれずに、とにかく生きていてくれればいい、なんとか自分の面倒は自分で見て世の中に世話をかけなければいいといった生き方しか期待されない。そういった環境に置かれている人はまだまだたくさんいると感じております。

私にできることは、法律を扱う弁護士としての仕事だけではなく、社会と様々な形でつながる活動の中で、障害のある人がもっと期待をされ、環境に恵まれて夢をかなえられる、どのような学びも、どのような仕事も、障害のない人と同じようにめざす機会が与えられる社会に少しずつ変えていくこと。それが私に求められていることかなと考えております。まだまだ微力ではございますが、私の持てる力を尽くして、今後障害の有無に関わらずどのような人でも夢をめざせる社会をつくっていきたいと思っております。このような私の今後に対していただいた賞かなと思っておりますので、精進いたします。本当にありがとうございました。



推薦人●コシノジュンコ（デザイナー JUNKO KOSHINO株式会社）

板原さんとは、知人のご紹介で知り合いました。初めからとても気が合って、板原さんが重度の弱視であることなどで忘れて、社会貢献活動のことなどをお話しさせていただきました。板原さんは先天性の視覚障害を持ちながら弁護士になられ、障害がある方々が夢を実現できる社会をつくりたいと様々な活動をされています。

これからもぜひこうした活動を続けていただきたいと思います。
本日はどうもおめでとうございました。

河村 建夫 元内閣官房長官、元文部科学大臣

未来のいしずえ賞が8回目を迎えました。毎回すばらしい方が選ばれますが、今回はまた一段とすばらしい方々が選ばれたと思います。まずは受賞者の皆さまに心からおめでとうございまして申し上げます。同時に、この方々を選ばれた選考委員の皆さんも素晴らしいと思いました。

各推薦者の言葉を聞きながら、心が温かくなりました。さらに受賞者の方々の、今後はますます頑張りたいというお言葉を拝聴して、本当にすばらしいことだと感動を覚えました。

このような方々がおられることが日本の社会を支えているのだと思います。どんな名選手にも、どんな有名人にも、それを支える人が必ずおられる。児玉理事長がそこに着目され、そういう方々を激励しようという想いでこの賞を創られました。そのこと自体も大変すばらしいと思いますが、受賞された皆さまがさらに頑張っただけのことがすばらしいと思います。児玉理事長は一昨年「旭日双光章」を受章されましたが、その後もさらに頑張っておられる姿が尊いことだと思います。病を克服して元気でられるのは、高い理想をもって頑張っておられるからだと思います。

コシノジュンコ先生も2017年に文化功労者に選ばれ、ますます日本の文化を高める活動を続けておられます。スポーツも、医療も、文化も、社会活動も、日本にとって非常に重要なことです。社会のいわば根っこを支えてこられた方を表彰する、このような賞は他にはないと思います。

受賞者の皆さまにはますますお元気で社会のために頑張ってくださいをお願いして、言葉は足りませんが、ご挨拶とさせていただきます。本当におめでとうございました。



山中 伸弥 (京都大学iPS細胞研究所名誉所長・教授)



受賞者の皆さま、そしてご家族の皆さま、本日は本当におめでとうございまして。皆さまの紹介ビデオや推薦者の方々の言葉をお聞きして、こんなふうに皆さんのご努力で社会が一步一步いい方向に変わっていくのだな、本当にすばらしい活動がたくさんあるのだなと、改めて痛感いたしました。

大谷さんを推薦された京大病院の高折院長は友人でもありまして、去年、難病にかかった別の友人を高折先生に紹介して診てもらったところ、非常に感謝されました。京大病院で最先端の治療を受けたことよりも、「高折先生に体を触って診察をしていただいた。こんなことは5年以上なかった！」と感動していました。その話を高折先生にしましたところ、「そんなのあたりまえです」とおっしゃっていましたが、AIなどの技術がどれだけ進んでも、やはり人と人の直接のふれあいは、治療においても、教育においても、本当に大切だと改めて痛感したのですが、今日、拝聴しました皆さんのご活動は、まさに人と人のふれあいを大切にされていると思いました。皆さまのご尽力、ご努力に心よりお礼申し上げます。

最後に、このような縁の下の力持ちの活動に光を当てる賞を創られました児玉理事長、コシノジュンコ実行委員長をはじめ、KODAMA財団の方に心より敬意を表します。

皆さまのますますのご健勝をお祈りいたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。本日は本当におめでとうございました。



実行委員
受賞者



財団役員
受賞者・推薦人・実行委員



【スポーツ部門】
藤波 俊一さん
実行委員・推薦人
ご招待者



【医療部門】
大谷 貴子さん
実行委員・推薦人
ご招待者



【保健福祉部門】

一般社団法人 日本で・あーて、TE・ARTE, 推進協会

実行委員・推薦人

ご招待者



【文化奨励部門】

新井 鷗子さん

実行委員・推薦人

ご招待者



【社会活性化部門】

板原 愛さん

実行委員・推薦人

ご招待者

締め言葉

鳥飼 重和 「未来のいしずえ賞」実行委員

初回から実行委員を務めさせていただいておりますが、未来のいしずえを築くのはまさに女性だなと今日よくわかりました(笑)。

本日受賞されたのは、藤波俊一さん以外すべて女性です。この賞の選考の場でも、女性の方たちは凄い人脈と情報を握っておられることを実感しました。

私は弁護士で、専門分野は税法です。今は、セブンイレブンのような大きな企業も、海外の企業に乗っ取られることを必死に防がないといけな。そういう時代になっております。相手は世界です。これから真剣にどういう形で防衛するかを考えていかないと、日本の企業はどんどん乗っ取られてしまう。

未来はまだ見えませんが、いしずえ次第で未来は築けます。今日、受賞者の皆さまの活動について拝聴しただけでも、まだまだ無限のチャンスがあるのだと感じました。

未来のいしずえ賞はまさに未来を切り拓く賞なのだと思います。

本日は本当にありがとうございました。



2. 会場の様子

KODAMA国際教育財団 第8回(2025年)『未来のいしずえ賞』



2. 会場の様子



2. 会場の様子

